

# 森と木に関する仕事をめざす人へ

news letter no.005

2011.8

岐阜県立 森林文化アカデミー

## オープンキャンパスでアカデミーを体験しよう

8/21(土)、ほかに9/20~30、10/31~11/13、12/5~16にも

森と木に関する仕事に就きたいけど、第一歩をどう踏み出せばいいか分からない…そんな人は、気軽にオープンキャンパスに足を運んでみませんか？ 学生総数約80人、教員数18人の小さな学校ならではの密度の濃い学びの現場を見ていただけます。気になる講座の教員と直接話したり、在校生から学生生活のようすを聞いたり、キャンパス内の森や建物群を見て歩く機会もあります。裏面の森林文化アカデミー事務局までお問い合わせください。

(6月のオープンキャンパスで実施した、ミニ講義のひとコマです→)



教員のナバです！  
みんな待ってるよ



## 元エンジニア、元一流ホテル勤務… いろんな前職から、ものづくりの世界へ



ものづくり講座には、6人の1年生がいます。そのうち大学の新卒が2人。残りは別の職業を経て、木に関する仕事がしたいとアカデミーに入学した社会人たちです。それぞれユニークな経歴の持ち主です。

岐阜県出身の臼井徳宏さんは、エンジニアとして機械設計の仕事に携わっていました。次第に木工への関心が高まり、地元で木工の仕事に携わりたいとアカデミーで学ぶことを決めました。群馬県出身の岩井香織さんはこの春まで東京の一流ホテルで働いていました。去年、日比谷公園で行われた「森林の市」で、出展していたアカデミーの職員と話をしたのがきっかけで「こんな学校があったんだ！」と電撃的に退職を決意、木に関する仕事を目指しています。

木工というと、若い頃から職人修行をして…というイメージですが、いま社会で求められるものづくりの役割は実に多様です。機械設計や接客の経験をもってものづくりの世界に入ることは、むしろプラスになると私たちは考えています。

(ものづくり講座・准教授 久津輪 雅)

## 今年も「自力建設」が始まりました！



木造建築講座では、入学したばかりの学生たちに学内の建物を設計させ、実際に建てる自力建設という実習があります。今年のテーマは「森の階段」。校内に点在するフォリーと呼ばれる小さな構造物を、現在のアカデミーの活動にあわせて再構築する内容。この漠然とした難しい課題に、1年生の4人が挑みます。昼夜問わず敷地や各講座の教員、学生のところへ足を運び、多岐にわたるアカデミーの特徴を自分なりに解釈し、建築として表現していきます。

6月末には各々の計画案を全校生の前で発表する講評会が行われました。発表直前は満足のいく表現しようと徹夜の連続。投票の結果、僅差で今期設計者は建築未経験だった伊東さんに決まりました。これでひと段落と思いきや、工事に向け地域の職人さんとの打ち合わせをしつつ、やっぱり徹夜？で計画の最終調整。いよいよ7月27日の地鎮祭を皮切りに着工です。今年もアツイ夏が始まります。

(木造建築講座 講師・辻充孝)



### 森と木のクリエーター科



林業再生



山村づくり



木造建築



ものづくり

### 森と木のエンジニア科



(森林・林業・木材利用)

岐阜県立森林文化アカデミーは、森林を多面的に活用し、新たな森林文化の創造に寄与できる人材を育成する2年制の専修学校です。

大卒または実務経験者が対象の森と木のクリエーター科では「林業再生」「山村づくり」「木造建築」「ものづくり」のいずれかの講座に所属して専門的に学び、高卒以上の人を対象とする森と木のエンジニア科では、全員が「森林・林業・木材利用」を学びます。

より詳しい情報は、森林文化アカデミーHPへ。教員や学生がつづるブログは、学校の雰囲気がよく分かります。

森林文化アカデミー

検索

# 木曽の山・自然と人との素晴らしい関わりを感じて



赤沢自然休養林は、長野県木曽郡上松町にある林野庁中部森林管理局管轄の国有林です。また日本の森林浴発祥の地で、樹齢300年を越える美しい木曽ヒノキの森が広がっています。林野庁・国有林に就職する学生も多いことから、今回、国有林の歴史、取り組みや、光・土壤環境、稚幼樹の発生状況など、ヒノキ天然更新施業等を学ぶため赤沢自然休養林を訪れました。

赤沢自然休養林は、伊勢神宮遷宮の際の御神木にするために江戸時代から大切に守られており、木曽五木(ヒノキ・サワラ・ネズコ・アスナロ・コウヤマキ)として知られる木々に停止木(ちょうじばく)の指定を設けるなど、保護育成がなされてきました。森林内には、1975年まで実際に運行されていた日本最後の森林鉄道、木曽森林鉄道王滝線の一部区間を保存した赤沢森林鉄道が運行されており、森の貴婦人といわれるオヤマレンゲも咲いており、心地よい森林浴も楽しむことができました。

(林業再生講座 准教授・菊地與志也)



## 全国初！パーマカルチャー実習をはじめました



パーマカルチャーとは、オーストラリア発祥の持続可能な暮らしを創造する理論と技術です。今回は、建築の学生が造ったコンポストトイレの堆肥を循環利用するための畑作りが目的です。まず太陽や風、土壤、植生、水の流れ、地域の文化をじっくり観察します。石垣を積み上げると、自然がつくる美しいラインの段々畑が浮かび上がりました。

次に、土の上に微生物の入っている周囲の土壤を少々ふりかけ、その上に濡れ新聞紙(炭素補充用)を敷き詰め、更にその上に枯葉と藁のマルチをたっぷり敷き詰めます。地表が露出するのは禁物！地表が露出した環境は自然界にないからです。全て自然がお手本です。地表が覆われていれば保水力もありますし、外界から菌などが入り込むのを防ぎます。やがてそこに生きものが集まり、ひとつの生態系が築かれ、微生物たちによる豊かな土壤づくりが始まるからです。こうして土本来の持続可能な力が備わるのです。

自然が持つ力をを利用して持続可能な生活をする、これって一昔前の里山の暮らしですよね。オーストラリアから来たパーマカルチャーは、私達日本人が忘れていた先人の知恵や技術に気づかせてくれました。「森からはじまる持続可能な社会づくり」が始まりました。

(山村づくり講座 講師・萩原裕作)



## 森林文化アカデミーQ&A

## 「奨学金がいろいろあるって本当？」

森林文化アカデミーは学生総数80人ほどの小さな学校ですが、数多くの奨学金制度があります。まず、大卒や実務経験者が対象のクリエーター科向けには「森林文化アカデミー特別給費生制度」。期間は1年間で、金額はクリエーター科の年間授業料を賄う560,000円です。クリエーター科20人のうち、毎年2人ずつが成績により選ばれます。ほかに、郡上市・白鳥林工協業組合の前理事長の寄付金で運営される「美谷添奨学金」より、1年生、2年生各1人ずつに105,000円が1年間支給されます。

高卒以上の人を対象とするエンジニア科では、県内の3つの金融機関(十六銀行、大垣共立銀行、岐阜信用金庫)と美谷添奨学金より、毎年3人にエンジニア科の授業料をほぼ賄う108,000円ほどが支給されます。こちらは2年間継続で、岐阜県出身者が優先されます。

いずれも返還の必要のない奨学金です。ほかに、返還の必要な「日本学生支援機構(旧・日本育英会)」の奨学金を受けている学生もいます。こうして見ると多くの学生に奨学金を得る機会があることが分かります。詳しくは、森林文化アカデミーHP(入試情報のページ)を参照してください。

## 入試日程

変更する場合があります。  
最新情報はホームページでご確認ください。

森と木のクリエーター科

2011年10月16日(日)、2012年1月29日(日)、3月11日(日)

森と木のエンジニア科

推薦入試 2011年10月15日(土)

一般入試 2011年11月19日(土)、2012年1月28日(土)

## お問い合わせ

501-3714 岐阜県美濃市曾代88

岐阜県立森林文化アカデミー

tel 0575-35-2525 fax 0575-35-2529

email info@forest.ac.jp